



高野山の春の彩り しゃくなげ

霊宝館だより

霊宝館だより 第79号

平成18年4月10日発行

和歌山県伊都郡高野町高野山三〇六

(財)高野山文化財保存会

高野山霊宝館

電話 0736-5612029

春期企画展

「信仰世界の鳥獣たち」

— 仏教美術にみる動物表現 —

平成18年4月23日(日)～

7月9日(日)まで

■ 同時平常展開催中

霊宝館予定

第27回大宝蔵展「高野山の名宝」

7月16日(日)～9月18日(月)

企画展「寺院の漆工芸術」

9月23日(土)～12月10日(日)

企画展

「信仰世界の鳥獣たち」
— 仏教美術にみる動物表現 —

古来から動物は、日常生活に

おける使役や愛玩の対象として人間と密接な関係を築いてきました。また信仰世界においては、ときに神と人間を仲介する聖獣としての役割を担い、神や仏の化身として深い信仰の対象となってきました。

このような宗教世界に登場する動物たちは世界中の神話や民話、伝説のなかに見ることができ、日本においてはインドや中国から神聖な象徴性を備えた象や獅子だけでなく、龍や鳳凰など空想上の動物などを描いた絵画や工芸作品が数多くもたらされ、仏教美術を中心に忠実な模写と新たな創造が試みられてきました。

それらに描かれる動物や動物をモチーフとしたデザインは非常に個性的で躍動感に溢れ、山水や人物といった美的価値に加わる第三の美として考えること

ができます。

今回の企画展では、螺鈿により文様化された千鳥が光線を浴びて七色に輝く「澤千鳥螺鈿蒔絵小唐櫃」（国宝）や、白サギや小鳥など金銀泥で描かれた見返絵の美しさに眼を奪われる「金銀字一切経」（国宝）、

三頭蛇を持つ弁財天が放つ異様な気配が神聖性を呼び起こす「天川弁才天像」など、信仰世界を彩る数々の神獣・動物たちが表現された絵画・彫刻・工芸・書跡など三十八件を展示致します。

動物という身近な対象を切り口にご覧頂く仏教美術の世界に触れて頂くことよって、仏教美術をもっと身近に感じて頂き、また、世界遺産高野山の歴史と信仰を実感頂ければ幸いです。

◆主な出陳品

- 〈国宝〉
金銀字一切経のうち四卷平安時代 金剛峯寺
澤千鳥螺鈿蒔絵小唐櫃 平安時代 金剛峯寺

- 〈重要文化財〉
狩場明神像 鎌倉時代 金剛峯寺
厨子入金銅水神像 室町時代 金剛峯寺
覚禅鈔のうち二卷 鎌倉時代 西南院
十卷抄のうち二卷 鎌倉時代 円通寺
一字金輪曼荼羅図 鎌倉時代 遍照光院
文殊菩薩及使者像 鎌倉時代 遍明院
木造釈迦如来及諸尊像 中国唐時代 普門院
孔雀文馨 鎌倉時代 蓮華院
花鳥文馨 平安時代 清浄心院
金銅花鳥文馨 平安時代 親王院
銅馨 鎌倉時代 普賢院
舞楽装束類 蚕絵袍 室町時代 金剛峯寺
厨子入俱利迦羅竜劍 鎌倉時代 竜光院
など



金銀字一切経のうち



澤千鳥螺鈿蒔絵小唐櫃



狩場明神像

収蔵品の紹介 53

天川弁才天像

絹本着色 室町時代 親王院

縦100・2cm 横39・7cm



弁才天は梵名サラスヴァティ
 ーといい、元々インドで川の女
 神として信仰されていまして
 が、わが国では福德をもたらす
 女神として「弁財天」とも書き
 表され、室町時代以降現在まで
 その信仰は続いています。その
 姿は八臂像（腕が八本）、ある
 いは音楽神としても信仰されて
 いるため琵琶を持つ二臂像に表
 されることがほとんどです。ま
 た弁才天はその出自から、川・
 湖・池といった水に関連する場
 所に祀られる事が多く、奈良県

天川村の天河神社は、琵琶湖北
 部に浮かぶ竹生島、神奈川県の
 江ノ島と並んで弁才天信仰が盛
 んな場所として知られていま
 す。
 本像は我々が普通イメージす
 る弁才天とは大きく異なり、蛇
 の頭が三つ、腕が十本という奇
 怪な姿となっています。このよ
 うな弁才天像は天河神社が発祥
 であるとされるため、天川弁才
 天、あるいは天川弁才天曼荼羅
 と呼ばれます。
 この蛇については、わが国古

来の神である宇賀神との結びつ
 きによると考えられます。宇賀
 神は食物・五穀の神で福德をも
 たらすとされ、本像とは逆に人
 頭蛇身で中世以降の弁才天像の
 頭頂にしばしばその姿が見られ
 ます。また、雨乞いをする弘法
 大師の前に善女龍王が金色の蛇
 の姿となって現れ、雨を降らせ
 たという伝説からも分かるよう
 に、蛇と水は古くから縁の深い
 ものだと考えられていたよう
 で、弁才天一水一蛇という一連
 のつながりも関連すると思われ
 ます。
 なお、弁才天やその周囲の眷
 属の姿については室町時代成立
 と考えられる「十臂弁才天次第
 口決」に詳細な記載があり、本
 像はこれをもとに描かれたと考
 えられます。それによると弁才

天は水天・火天を踏み、吉祥
 天・訶梨帝母が左右で供養し、
 蛇頭人身の三大王子が人々に宝
 を授ける、とあります。
 高野山と弁才天
 高野山には七弁天と呼ばれる
 弁才天をお祀りする社が散在
 し、弁天岳や弁天公園、弁天通
 などそれらに由来する地名も山
 内在住の者にとつては馴染み深
 いものとなっています。
 高野山と弁才天との関係です
 が、「紀伊統風土記」にかつて
 弘法大師が天河神社に千日間參
 籠し、三つの宝珠を授かり、そ
 のうちの一つを弁天岳の頂上に
 埋めて弁才天を祀ったとあり、
 天川と高野山との深い関わりも
 うかがうことができます。高野
 山に天川弁才天像や関係儀軌が
 伝わるのもこの事と無縁ではな
 いように思われます。

本像がどのような経緯で親王
 院に伝わるのかは不明ですが、
 いずれにしろ、この特異な弁才
 天像も高野山において盛んであ
 った弁才天信仰の一端を示すも
 のだといえます。

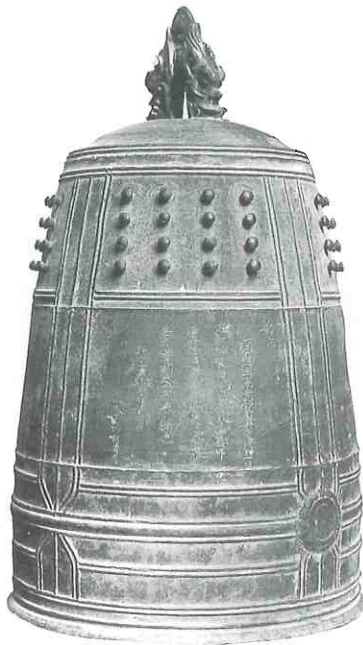
連載

高野山の名鐘

其の2

弘安三年在銘銅鐘

霊宝館副館長 井筒 信隆



銅鐘

この鐘については、江戸時代の『紀伊国名所図会』や『紀伊続風土記』に載せられ高野山の名鐘としての取り扱いがされています。この梵鐘は、明治四十一年に伽藍境内に移され現存する国宝「不動堂」（金剛峯寺所有）が、移築前に存在していた元一心院谷の不動堂境内の鐘楼に懸かっていたもので、坪井氏が大正六年に登山された時には、同谷にあった「高野山案内所」前の路傍の鐘楼に懸けられていたと元の所在を紹介されています。この梵鐘はその後、高野山霊宝館に移され保存管理が行われています。

梵鐘の池の間と称される部分の四区には、陰刻される銘文が存在

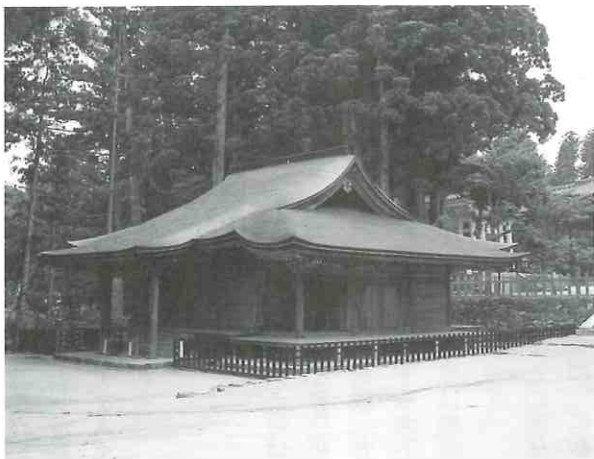
叡尊の名を留める貴重な梵鐘

先の号で紹介した「大塔の鐘」に引き続き、昭和三十八年に坪井良平氏によって調査され「高野山の梵鐘」としてまとめられた調査報告書に記載される梵鐘を紹介します。

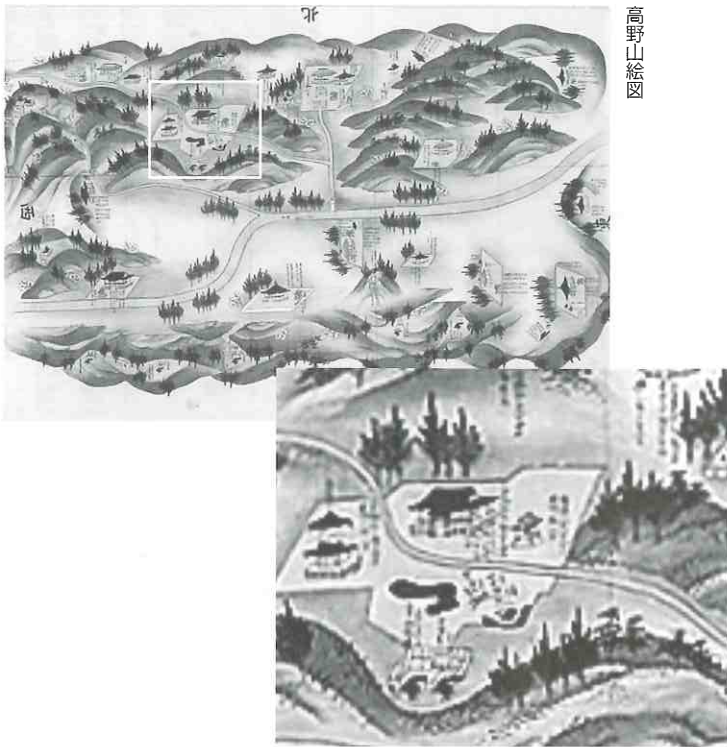
現在、高野山霊宝館には、二口の古い重文指定を受ける梵鐘が収蔵展示されています。

まず、本号では鎌倉時代の弘安三年（一二八〇）に制作された紀年銘などを有する在銘があるもので、重文指定を受ける名鐘を紹介します。

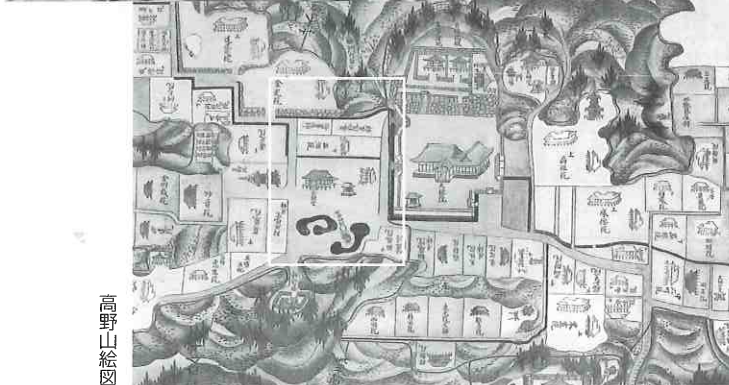
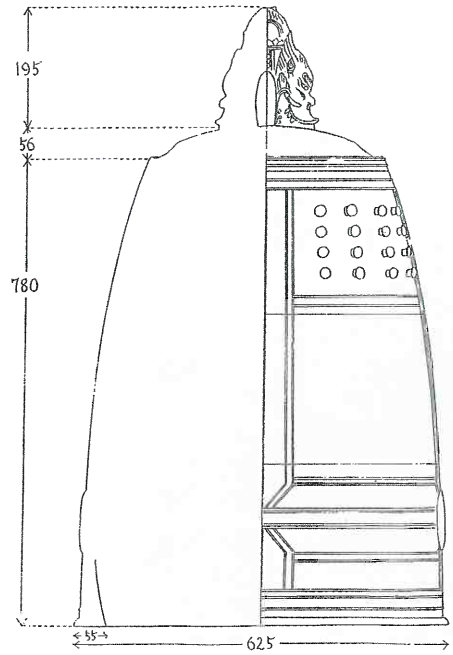
し、鎌倉時代の弘安三年正月二十五日に「沙弥尊念」よって铸造されたものであること。その経費の



国宝 金剛峯寺 不動堂



高野山絵図



高野山絵図

捻出のために浄縁が大勲進職を務め、二十三名の僧俗の人々が施主となって鑄造されたことを伝える銘文があること。この鐘は、鑄造銘に「河内国高安郡教興寺洪鐘一口」とあって、元、教興寺（現大阪府八尾市）の鐘であったことが判明しています。また、銘文中に同寺の修理本願として「南都西大寺長老叡尊」の名がみられます。在銘中に存在する叡尊とは、わが国の律宗の中興の祖と称される興正菩薩叡尊のことで、「金剛佛子叡尊感身学正記」の文永六年と七年の条によると河内の教興寺の復興に尽力したことを伝える記事があると紹介しています。

どのような経緯で高野山にこの梵鐘が伝来することになったか不詳ですが、『感身学正記』によると叡尊が二十四歳にあたる元仁元年（一二二四）二月二十三日に高野山に登り、往生院に止宿して真經阿闍梨の弟子となって五月下旬まで滞在したことを伝えるとし、叡尊と因縁浅からざる高野山に叡尊の名を留める貴重な梵鐘が残っていることは偶然とは思われないと報告されています。

北海道で初、高野山展 開催予告

「空海マンダラ 弘法大師と高野山」展



国宝 制多迦童子像

北海道「旭川展」

北海道立旭川美術館

平成18年 9月9日(日)～10月22日(日)

北海道「札幌展」

北海道立近代美術館

平成19年 4月24日(火)～ 6月3日(日)

弘法大師の密教精神や、人々がこよなく愛した高野山の浄土信仰の姿を展示紹介する本格的な展覧会が初めて北海道の地で開催されることになりました。この展覧会の開催については、北海道宗務支所などの関係者などから「高野山展」の開催を要望する熱い思いが寄せられてきた展覧会です。開催に向けてさまざまな角度から検討を加えてきました。平成十六年七月に高野山が世界文化遺産に登録されたこと、また、平成十七年に北海道の知床が世界自然遺産に登録されたことを踏まえ、人類にとって、大切な自然といかように共生をし発展を遂げるか意識せざるを得ない世にお

いて、自然の中で瞑想し宇宙の真理を見極めようとした大師の姿勢に学び、大師が伝えたマンダラ精神は多様な価値観を包容する宇宙的視野にたつた奥深い示唆に富んだ教えであることを伝えるべく、展覧会構成を行い「空海マンダラ―弘法大師と高野山―」展を開催することになりました。展覧会では、平清盛奉納の重文「両界曼荼羅図」、運慶作の国宝「八大童子像」、弘法大師筆の国宝「聾瞽指帰」など国宝十件・重文四十二件を含む百二十点の高野山の名宝が二会場において分散展示されます。北海道においてこれほどの大規模展覧会は過去になく、初めての大展覧会となります。



国宝 矜羯羅童子像



国宝 諸尊仏籠

「空海誕生の地 善通寺」展

香川県歴史博物館にて

平成十八年四月二十二日(土)
～五月二十八日(日)迄

主な出陳品

- ・ 響誓指帰・高野大師行状図絵
- ・ 金念珠・弘法大師入定図 など



時事

御遠忌八百年記念特別展

「大勧進 重源―東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出―」

奈良国立博物館にて

平成十八年四月十五日(土)
～五月二十八日(日)迄

主な出陳品

- ・ 木造孔雀明王像
- ・ 木造四天王立像
- ・ 深沙大將立像
- ・ 執金剛神立像 など



【文化財防火デー】



文化財防

火デーの一
月二十六
日、高野山
でも消防訓
練が行われ
ました。訓
練は午後二
時から行わ
れ、伽藍不

動堂から出火、折からの風で延焼の恐れありとの想定で、消防車が不動堂周辺に集結し、凍りつくような寒さの中、約十分間本番さながらの放水訓練が繰り広げられました。

【収蔵庫の整理】

平成十五年、新収蔵庫である平成大宝蔵が建設されたことにもなつて、霊宝館では収蔵物件の大幅な移動作業を順次行ってきました。現在、それに続く作業として全収蔵番号の変更と細かな棚移動を行っています。しかし、



四つある収蔵庫の物件数は五万点をも超えるといわれるだけに、その作業は進まないのが現状。今後、十

年間をめどに整理がすすめられる予定です。

【雪による被害】

屋根に積もった雪が溶け、勢いよく落ちた



雪で壁面が破損しました。山内でも屋根から落ちた雪で車のガラスが数割れしました。

友の会のご案内

高野山霊宝館友の会では新規会員を募集しております。

会員構成と年会費(次年度より)

- A、一般会員(個人)……………三千元
- B、賛助会員(法人)……………三万円

会員の特典

- A、一般会員(個人)
 - ① 平常展・特別展(大宝蔵展)、特別陳列等を御本人と同伴者一名様まで無料で鑑賞することができます。
 - ② 特別展の図録を一部進呈いたします。また、関連展示会の招待券をお送りすることもございます。
 - ③ 季刊誌「霊宝館だより」をお届けします。
- ④ 特別展の期間中、学芸員による列品解説をお聞きいただけます。(※日時等は、霊宝館だよりでお知らせします。)

B、賛助会員(法人)

一般会員の特典に加え、同伴者は十名様まで、展示会の招待券と特別展開催における図録を十部お送り致します。

お申し込みは

まずお電話でお問い合わせ頂るか、霊宝館で直接お申し込みください。入会手続きが完了しますと

お手元に会員証をお届けします。(なお、会員証の有効期限は登録年度の一年間です。)

年度末に継続のご案内をお送りします。

霊宝館販売品のご案内



物品販売スペース

霊宝館では現在100種類ほどの物品を販売しております。もちろんそれらのすべてが霊宝館オリジナル商品で、他では手に入らないものばかりです。

前回に引き続きご紹介させていただきます。また、ホームページからもご注文いただけます。

■絵はがき 各¥100
 弘法大師坐像、ろうこしいき 髻髻指帰、大日如来坐像、不動明王坐像、孔雀明王坐像、深沙大將像、執金剛神像、八大童子立像など50種類近くの絵はがきがそろっています。

■色紙 各¥1200
 弘法大師像
 稚児大師像
 国宝 仏涅槃図
 国宝 金銀字一切経見返絵

■髻髻指帰 2巻 ¥7900
 弘法大師が24歳の折りに記した髻髻指帰を原本(国宝)と同じく2巻本として「ミニチュア」にしたものです。



▲50種類近くの絵はがき

展覧会回顧

高野山の菩薩像

平成七年開催



¥2000

主な出陳品

- ・伝船中湧現観音菩薩像(絵画)
- ・阿弥陀三尊像(絵画)
- ・五大力吼菩薩像(絵画)
- ・木造如意輪観音像(彫刻)
- ・菩薩立像(彫刻)
- ・金銀字一切経「中尊寺経」(書跡)

展覧会内容

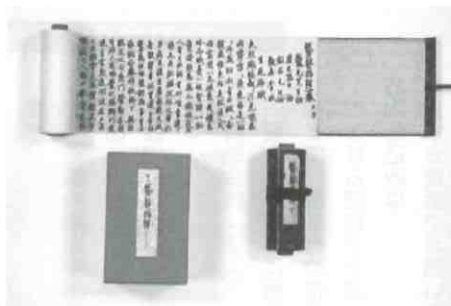
本展覧会では、菩薩には観音菩薩や地藏菩薩などさまざまな種類があるが、高野山に伝わる如意輪

観音や文殊菩薩などの尊像を種別に公開しました。

■図録内容
 仏の種類には大きくわけて4種がある。如来・菩薩・明王・天部がそれであるが、本図録はその中の菩薩の諸尊を紹介しているシリーズ本。観音・地藏・文殊・普賢・弥勒・虚空蔵・五大力など項目別に写真紹介し、多様な姿が把握出来るようにしています。



色紙 ▲▲



▲髻髻指帰

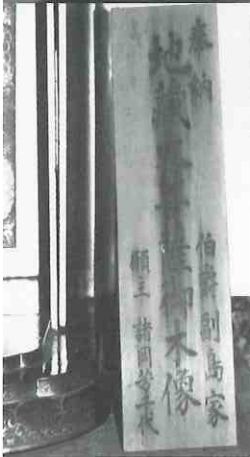


金剛峯寺稚児ノ間の地蔵尊

伯爵副島家に伝来



金剛峯寺 稚児ノ間



地蔵尊前の奉納者名木札

金剛峯寺本殿には稚児ノ間と呼ばれる十畳ほどの一室があります。その床の間には、厨子に収められる地蔵菩薩立像がおまつりされています。像高は八二・五センチメートル。桜材の一木から彫り

出されているかと思われ、彫りが浅く、流れるような衣の表現などから、平安時代後期頃の製作であることがわかります。しかし、両手足の先や面部などに後世による修理箇所も少なからず見受けられ、本像の来歴に、なにがしか関連するものと思われます。

行き当たりります。諸岡家は種臣の娘、芳千代の嫁ぎ先であることから、恐らく間違いないと思われるます。さらに詳しく調べてみますと、偶然にも地蔵尊奉納に至るまでの詳細な経緯がわかってきました。そこで先ず、副島家の伯爵、副島種臣について見てみることにしましょう。

■ 諸岡芳千代が奉納

地蔵尊の厨子前には「奉納 地蔵大菩薩御木像 伯爵副島家 願主諸岡芳千代」と書かれた木札が置かれています。伯爵副島家に伝来していた地蔵尊を諸岡芳千代という人が奉納したらしいことがわかります。では副島伯爵とは一体誰を指すのでしょうか。近代において副島・諸岡の両家をつなぐ人物を探ると、副島種臣という人に

■ 副島種臣伯爵

枝吉二郎、後の副島種臣は、文政十一年（一八二八）九月九日、佐賀藩士で国学者の枝吉忠左衛門の二男として生まれました。小さな頃から聡明で、成人してからは博学強記であったといわれています。性格は物静かであるのに加えて、曲がった事や間違った行いが嫌いで、角を曲がるのも直角に曲



副島種巨 (国立国会図書館蔵)

がったといわれるほど実直であつたと評されています。三十二歳のとき、菅原道真を遠い祖先にもつ副島家、副島利忠の養子となり、以後、副島種臣と名乗ります。宣教師フルベッキから英語を学び、アメリカ憲法などに精通していたことから、後に外務卿、いまの外務大臣を務めます。さらに第一次松方正義内閣の内務大臣などを歴任するなど、明治政府の官制の整備に手腕を発揮した官僚、政治家として知られています。

明治三十八年(一九〇五)七十八歳で没。その生涯は清貧であつたといわれています。通称は二郎、能書家としても知られ、号は蒼海ともいいました。

■地蔵尊と種臣伯爵

稚児ノ間の地蔵尊は、もともと副島家の家宝として伝来したというのではなく、種臣個人の念持仏でした。しかも、種臣が東京の商家にて購入したものであったようです。求めた動機は、商家が伝える地蔵尊の伝歴が、もと河内(藤井寺市)の道明寺に伝来したということにあつたようです。道明寺は菅原道真ゆかりの尼寺で、本尊十一面観音像は道真御作として伝わっています。

本来、道明寺は天満宮境内にあつたのですが、明治期の神仏分離令に際し、隣地へと移されました。その時、どういうわけか地蔵尊が流出し、巡りめぐって東京の商家の手に渡つたといえます。副島家



副島家伝来の菅原道真御神印

は菅原道真を遠祖とし、しかも代々の家宝として、菅原家秘蔵の御神印というものが伝えられているほどの家柄でした。種臣は、地蔵尊流失の真偽はともかくも、このまま見過ごすことができず手に入れたようです。そして、越前堀の鍋島下屋敷にて丁重におまつりし、朝夕に香華を供えていたと伝えられています。

種臣が越前堀に転居したのは明治十三年(一八八〇)で、明治二十九年(一八九六)には千駄谷原宿に移転していることから、この間に地蔵尊を入手したことになります。

■地蔵尊奉納までの経緯

副島種臣は亡くなる前に地蔵尊を娘、芳千代に譲ります。ところが芳千代は諸岡正順に嫁ぎますので、地蔵尊は長年、副島家に預け置かれたままとなっていました。そんなある日、芳千代は、仏像が土中に埋もれていて、近々世に出るとの霊夢を見ます。これはきつと長年しまい込んである地蔵尊のことに違いないと察し、さっそく実家の副島家へと相談に訪れまゝす。副島家には当時、種臣の後室となっていた旧姓松島正子が、主人亡き後、家を守っていました。



厨子入地蔵菩薩立像



現在の愛宕神社の石段前（東京都港区愛宕1丁目）
撮影場所は下の写真と同じですが、現在、古物商店の位置はビルに変わっていました。

その時、正子と親父のあったらしい森岡つる子という人が、関東八十八ヶ所十七番札所参詣の帰途に副島家に立ち寄っていました。そこで芳千代は、地藏尊をどこかの寺院へ奉納したいという相談を持ちかけたところ、つる子が高野山へ奉納することを勧めます。それではということで、奉納一切の事柄をつる子に委託することとなりました。つる子は森岡家の菩提寺である白金台町高野寺文殊院の住職、廣瀬心澄師を伴って、当時、東京の高野山出張所であった大徳

院を訪れます。大徳院には、高野山宝物保存会理事であった佐伯宥純師が、霊宝館建設の資金調達にともない上京中だったため、話はすぐさま高野山へと伝えられました。

奉納に際しては、高名な仏師高村光雲に仏像鑑定を依頼するといった慎重ぶりです。大正二年（一九一三）十二月八日付にて、藤原時代の優秀な作であるとの鑑定書が高村仏師より発行されます。続いて手足が破損していたのを修復し、特に地藏尊の左手に持つ宝珠と中指は、高価な沈香材をもって新調したということでした。ただし、現状では宝珠、中指とも見あたりません。

■ 十数名を伴って出発

大正三年（一九一四）、東京芝区（現・港区）の愛宕神社前にて記念撮影を行い、同年五月十五日、十数名の一行を伴って高野山へ出発、十九日無事に到着します。翌日、道中行列をもって金剛峯寺に入り、奉納式が行われました。そ



北区愛宕町（東京都港区愛宕）の愛宕神社前にて記念撮影。中央のリアカーには白木の厨子に入った地藏尊が祀られ、結縁者の家々を巡りました。子どもたちが持っている旗には「地藏尊高野登山御入佛」と書かれています。大正三年五月十五日高野山へ向けて出発し、19日に到着しています。

の際、地藏尊は「延命地藏尊」という名称で奉納され、以降、今日まで九十二年間お祀りされていることとなります。その後、大正十

五年（一九二六）五月に種臣の三男、副島道正を中心として厨子が新調され、続く昭和三年にも、厨子前の錦帳が副島・諸岡家によって追加奉納されています。

こうしてみますと、種臣が副島家を継がなければ地藏尊を入手することもなかったでしょう。さらにいえば、種臣の娘、芳千代が霊夢を見なかつたら、森岡つる子が副島家に立ち寄っていなければ、などと思えます。不思議な縁を感じずにはおられません。副島・諸岡両家をはじめ、奉納にたずさわった多くの方々のおいが、いつまでも伝わりますように。

(M)

※奉納者等の敬称は略させていただきます。

探しています！

明治から昭和の 高野山にまつわる写真

霊宝館では、明治期から昭和の中頃までの、高野山にまつわる写真を探しています。特に建物や街道沿い、山内の風景なども今となっては大変貴重になりつつあります。こうした写真を複写させていただきます、所有者を明確にしつつ、

霊宝館で保存管理していきたいと考えています。古い写真をお持ち



の方がおられましたら、ご一報いただければ幸いです。

上の写真は、根本大塔の壁画を運ぶのに、牛に牽かせて不動坂を登っているものとされています。写真の説明では昭和十二年としています。国書刊行会発行（昭和五年）の『写真集 橋本』に載せられているのですが、写真自体の所有者がわかりません。ご存じの方がおられましたら、かさねてご一報の程よろしくお願いいたします。連絡先〇七三六―五六―二〇二九

霊宝館の石楠花



五月初旬になると、石楠花が咲きます。昨年霊宝館では十数年ぶりの盛花で、庭園にはカメラを持った拝観者がたくさんいました。是非一度、足をお運び下さい。お問い合わせは 高野山霊宝館まで



拝観時間の変更と利用案内

開館時間（平成18年度から次記のとおり変更されます）

5月1日～10月31日

8時30分～17時30分

11月1日～4月30日

8時30分～16時30分

休館日 年末年始のみ

拝観料 大人 600円

高・大学生 350円

小・中学生 250円

紫雲放光

● 霊宝館で最初に春の訪れを感じさせるのは、庭の片隅で人知れず芽を出すフキノトウです。でも今年は少し遅いような気がしています。

● 本年二月二十一日、家庭用ゲーム機で有名な任天堂の相談役が、京都・嵐山の「時雨殿」の建設費二十一億円を出資し、続いて京都大学病院の新棟建設費七十億円を寄付したというニュースが流れました。

● これを知って、霊宝館も大正時代に三井財閥などの政・財界人による多くの寄付によって建ったことと思ひ合わせ、後世に遺産をのこすことの意味を再認識いたしました。

● 霊宝館はいま八十五年目の春を迎えました。

(M)